

クノギ 久乃木 鹿島郡一青庄に屬する部落。もと久乃木と書いたのを、元祿十五年十二月今の字に改めた。クノギはクヌギの訛である。明治八年十月石塚を併合した。

クノギ 此木 ↓クノギ 此木(鳳至)。
クノリ 久乃利 ↓クノリガハシリ 九里川尻。

クノリ 九里 珠洲郡布浦の内の小字。
クノリガハシリ 九里川尻 珠洲郡木郎郷に屬する部落。天正八年正月十一日長連龍が小林圖書助に與へた判書に『去年以來上下馳走共神妙に候。然者久乃利・たてかべ貳萬疋之分令扶持。』とある久乃利は今の九里川尻である。

クノリガハシリガハ 九里川尻川 珠洲郡に在る。鳳至郡界に發し、國重・時長・行延・不動寺宮犬を經、秋吉に至りて河幅を増し、九里川尻に至つて海に入る。流程八軒。一に木郎川ともいふ。

クノリクロベエ 九里九郎兵衛 慶長五年前田利長が大聖寺城の山口宗永を攻撃せんとするに先だち、降伏勸誘の使者を勤め、次いで金丸に進撃して戦死した。子孫は詳かでない。

クノリサイエモン 九里齋右衛門 初め越前東郷城に在つたが、加賀に來つて天徳院夫人に召仕はれ、その逝去の後前田利常から俸十人扶持を受け、承應三年十月歿。子徳右衛門二百石を食み、後裔相繼いで藩に仕へる。

クノリナガマサ 九里永正 通稱覺右衛門。正貞の嫡男。慶長五年前田利長に仕へて二百石を賜はり、大聖寺の役に從軍し、利常の封を襲いだ後祿二百石を増せられ、大坂兩役

に從軍し、後の役に創を受け、元和六年六百石を増し、計千石となつた。寛永七年歿。
クノリマサオキ 九里將興 通稱甚右衛門。右近。正長の弟でその嗣となつたもの。貞享三年本祿二千石を襲ぎ、馬廻組に入り、元祿三年大小將組に遷り、番頭となり、十年途に組頭に昇り、十五年馬廻頭に轉じた。寶永三年歿し、その後を絶つ。將興字は孟祥、詩を好み、その閑を至樂と名づけ、奥村唐禮・前田知頼等と徴逐した。

クノリマササダ 九里正貞 通稱甚左衛門。越前の人。初め織田信長に仕へ、後府中で前田利家に仕へ、次いで七尾に徙り、二百石を賜はり、利長・利常に歴仕し、元和元年退老して、宥知と號した。寛永十年六月歿。子孫相襲いで藩に仕へる。

クノリマサナガ 九里正長 通稱覺右衛門。父は永正。寛永四年前田利常に仕へて三百石を賜はり、父の歿後その四百石を併せた。十七年又五百石を増し、大小將取次となり、後綱紀に仕へて承應元年馬廻頭に昇り、三年八百石を増され、計二千石となり、大小將頭に轉じ、江戸用人に任じたが、寛文二年病を得て職を辭し、延寶五年復職して馬廻頭となり、貞享三年退老して、夕庵と號し、本祿二百石を割いて養老俸とした。元祿七年五月歿、享年八十二。正長は字を仲天といひ、三三三里人と號し、その著に王代積年記がある。

クノリヤクシ 九里藥師 ↓ヤクシジ 藥師(珠洲)。
クノリヨシマサ 九里令正 通稱陽次郎。覺右衛門。歩。初諱直諒。寛政元年父覺右衛門の遺知三の一を嗣ぎ、二年本知千石内二百石與

力知に復し、御馬廻に班し、次いで表小將御使番等に任じ、文政五年二百石を加へ、竹澤御殿附御側組頭となり、前田齊廣卒去の後之を免ぜられ、天保七年御馬廻頭に進んだ。
クハカウゾウエツケセコヤク 桑橋植付勢子役 藩政の時百姓の臨時役で、十村子弟に分役を命じ、桑橋の植樹を奨励監督したものの。

クハシマ 桑島 能美郡白山下なる島の部落を、明治十四年に至つて桑島と改めた。
クハシマハンジュウロウ 桑島半十郎 前田綱紀に仕へ、大小將組に班し、二百五十石を領して正徳五年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

クハヅカヤマ 桑塚山 鳳至郡越渡部落の西方に在る山。高さ四〇八米。地質輝石安山岩。
クハハジメマウシワタシ 歛初申渡 加賀藩では毎年正月十七日、改作奉行が御扶持人十村以下を集めて改作法申渡を行つた後、更に諸郡首座の御扶持人十村を召集し、歛初の書面を交附した。この事は寛文四年に初つたもので、『當年早速爲致歛初、耕作油斷仕間敷事。』以下農吏の心得を書いたものである。

クハバラ 桑原 江沼郡那谷谷に屬する部落。
クハマイ 鎌米 十村鎌米ともいひ、十村たる者が支配下の組に屬する男子一人に付二升宛の米を徴收するをいふ。元和二年十二月十六日の令に『加州在々所々組頭之肝煎扶持、從當年其組中として鎌一丁に付米二升宛出し、公儀御用之賄に可仕候旨被仰出候。』とあるを初見とする。文政四年の改法によつて

鎌米に代ふるに一定の給米と鎌米の四歩とを與へることになつたが、天保十年の復元によつてまた先規の通りになつた。鎌米は十五歳以上六十歳までの百姓皆之を出したが、新田裁許・新田裁許列・山廻・山廻列の者は、自己家族共に鎌役米を出すを要せず、村肝煎も當人のみ之を除かれ、百姓の家に雇傭せられる者も亦納入しなかつた。
クハムラモリヨシ 桑村盛良 盛良は通稱興四郎。白銀職を後藤顯乘に學んで、金澤に來仕した。その子小四郎富久は後藤程乘に、次郎三郎盛征は叔父弘良に學んで、共に名手であつた。盛良の弟弘良は、通稱佐右衛門、號古工。程乘門下で、大聖寺侯より祿百石を受け、後致仕して法名を淨空といひ、甥良弘を養うて嗣とした。弘良の弟盛勝、通稱又四郎後長右衛門、號宗順。後藤覺乘に學んだ。盛勝の長子清左衛門克久、號は休休。傳來の家風に工夫を加へて、桑村彫の創始者と稱せられる。その弟興三兵衛良弘は伯父弘良の後を襲いだものである。盛勝の弟に治平盛弘法名了由があり、覺乘の門に學び、その子治平盛明と共に巧手であつた。盛弘の弟清四郎盛審は後藤演乘に學び、その長子は金四郎盛津、次子は善次盛毅である。
クハヤチムラ 桑谷内村 總持寺文書正慶二年三月六日附のものに、『補任能登國備比庄桑谷田村内儲(諸)岡寺院主職事云々。』と見える桑谷田村は桑谷内村の誤かと思はれるが、今の何處とも明らかでない。諸岡寺はもと鳳至郡諸岡に在つたが、寺地を總持寺に讓つて後にそこに轉じたのである。
クハアラヒケ 首洗池 江沼郡柴山にあ